

丹鶴叢書

乙寺緣起 完

093.1

2006

佛教大学図書館



2005494690



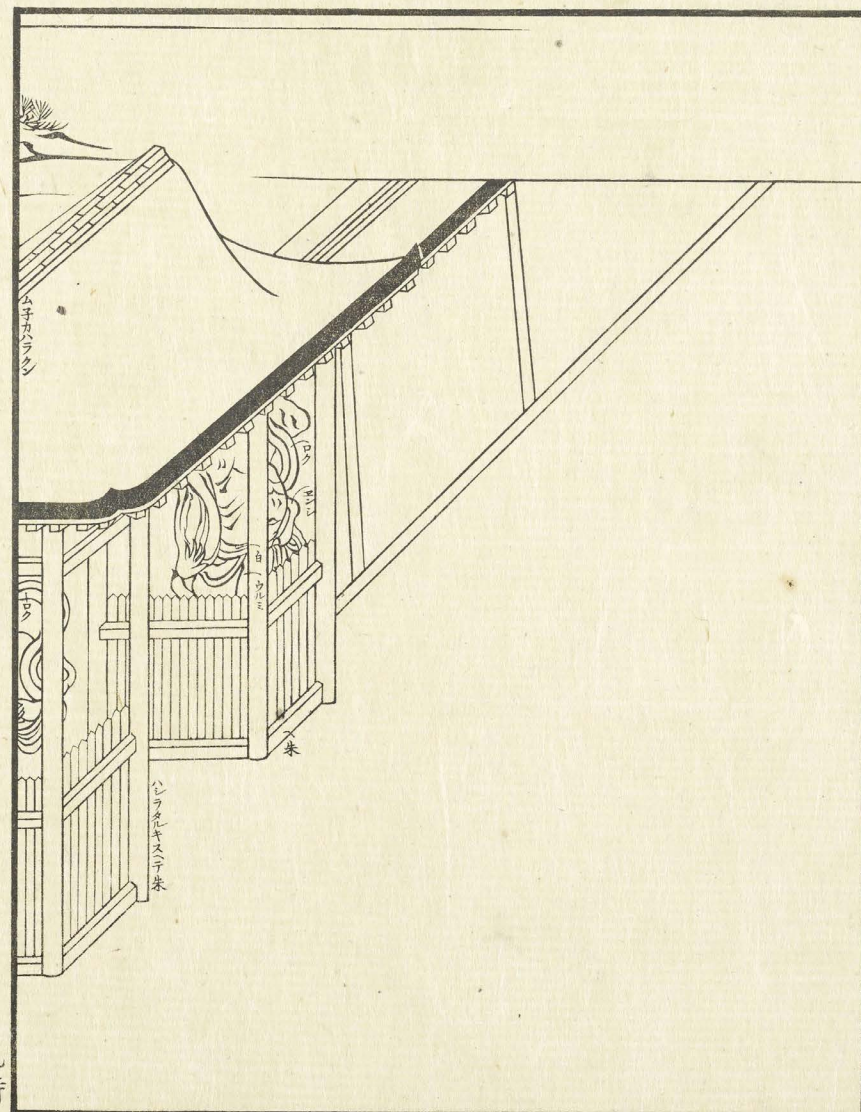


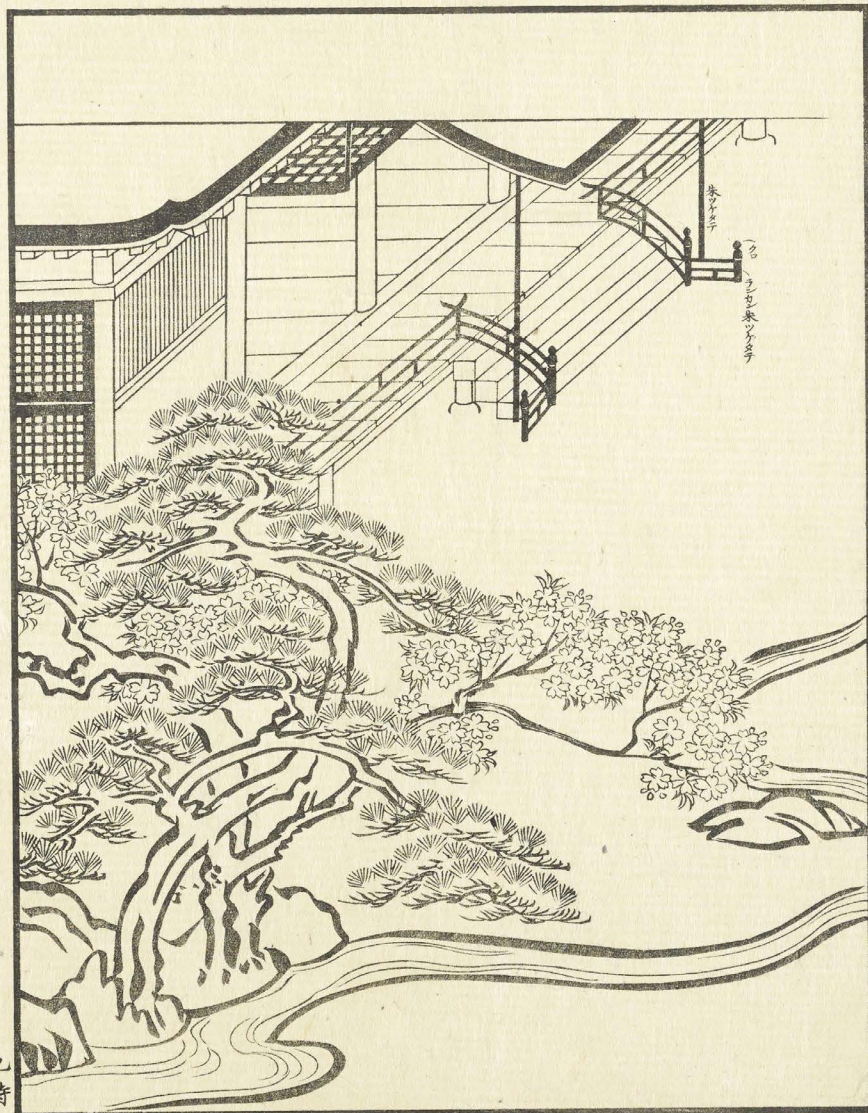
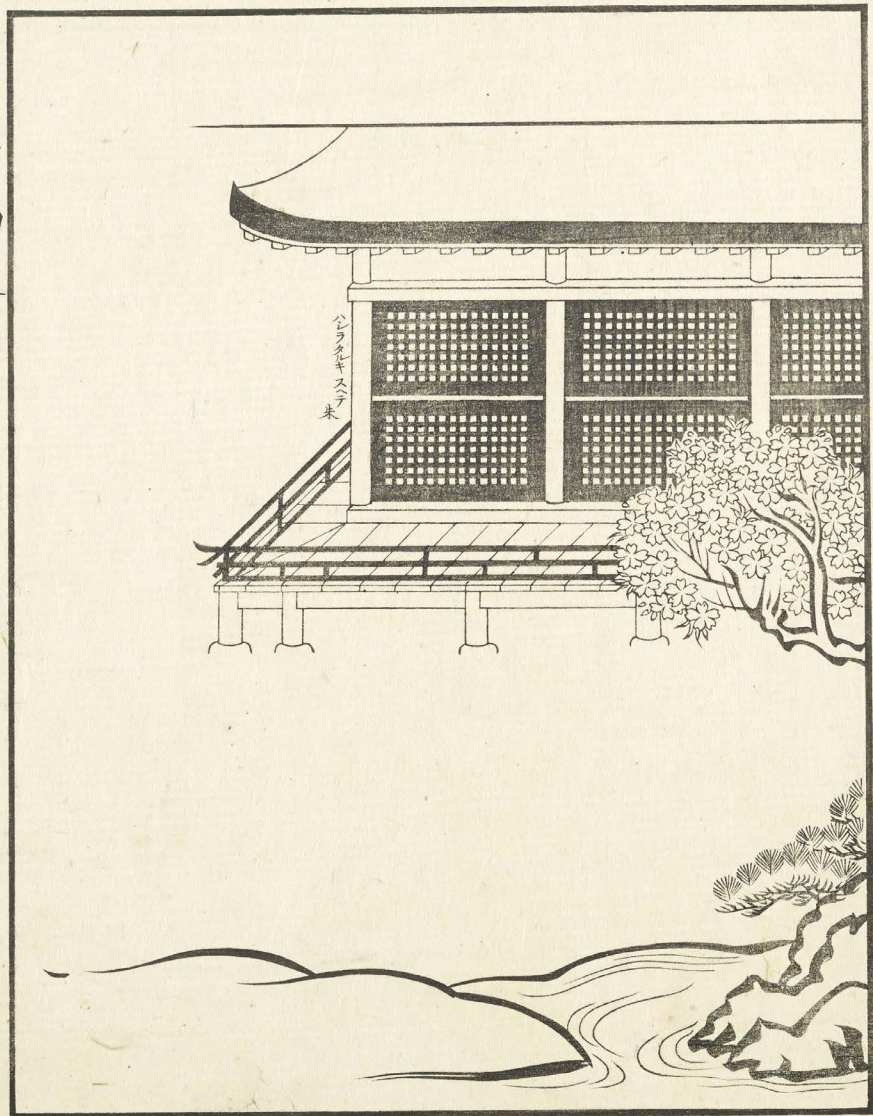
丹鶴叢書 戊申帙

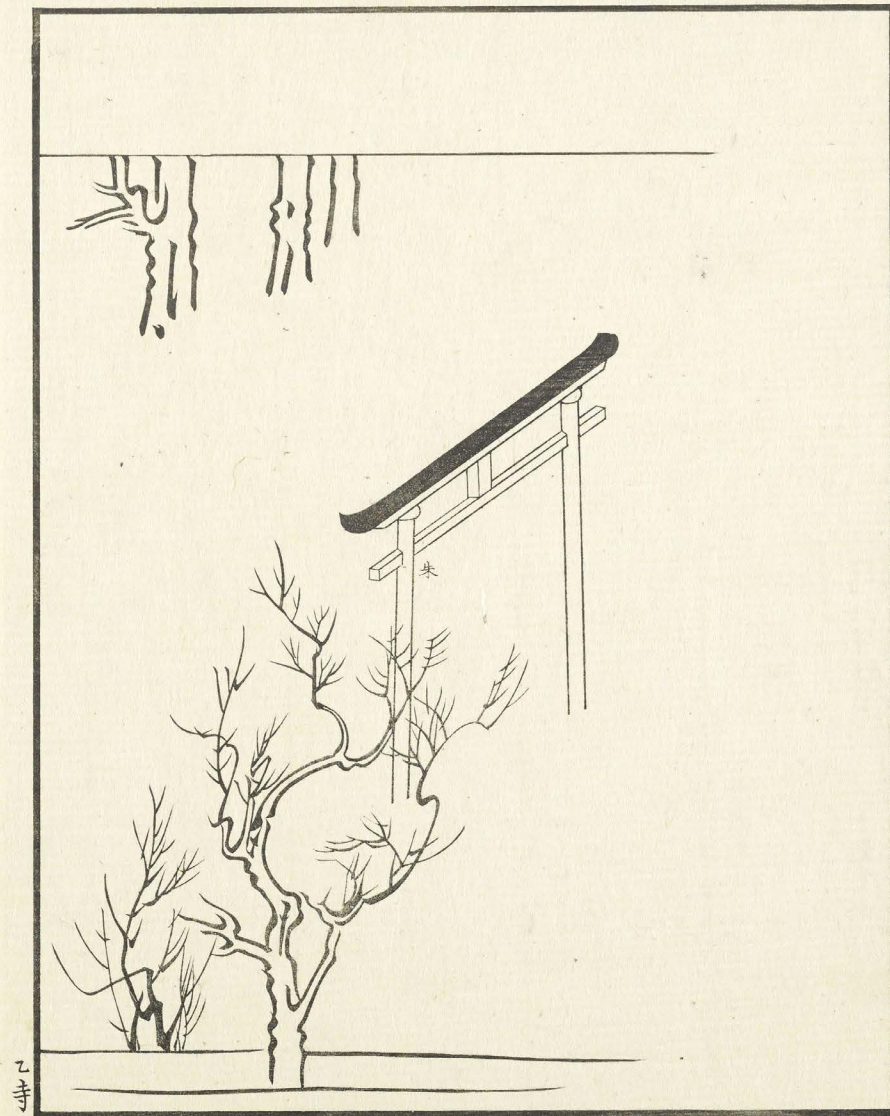
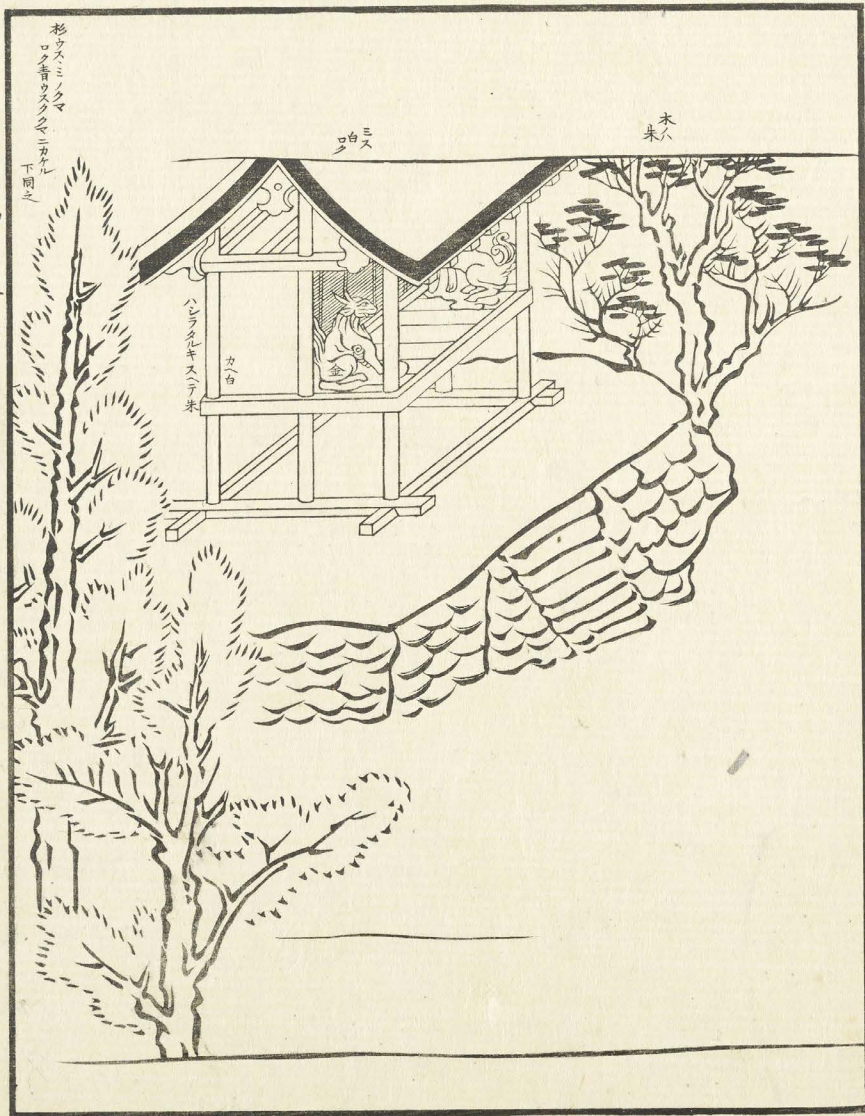
從五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻

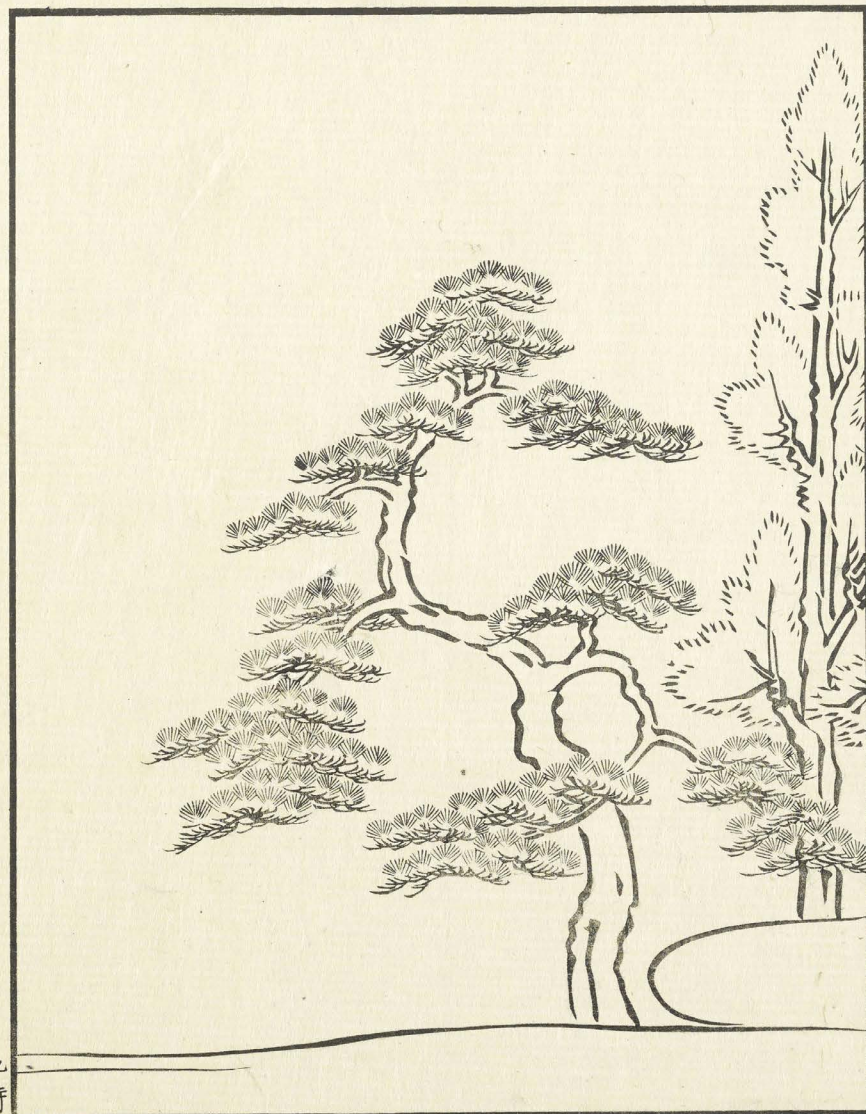
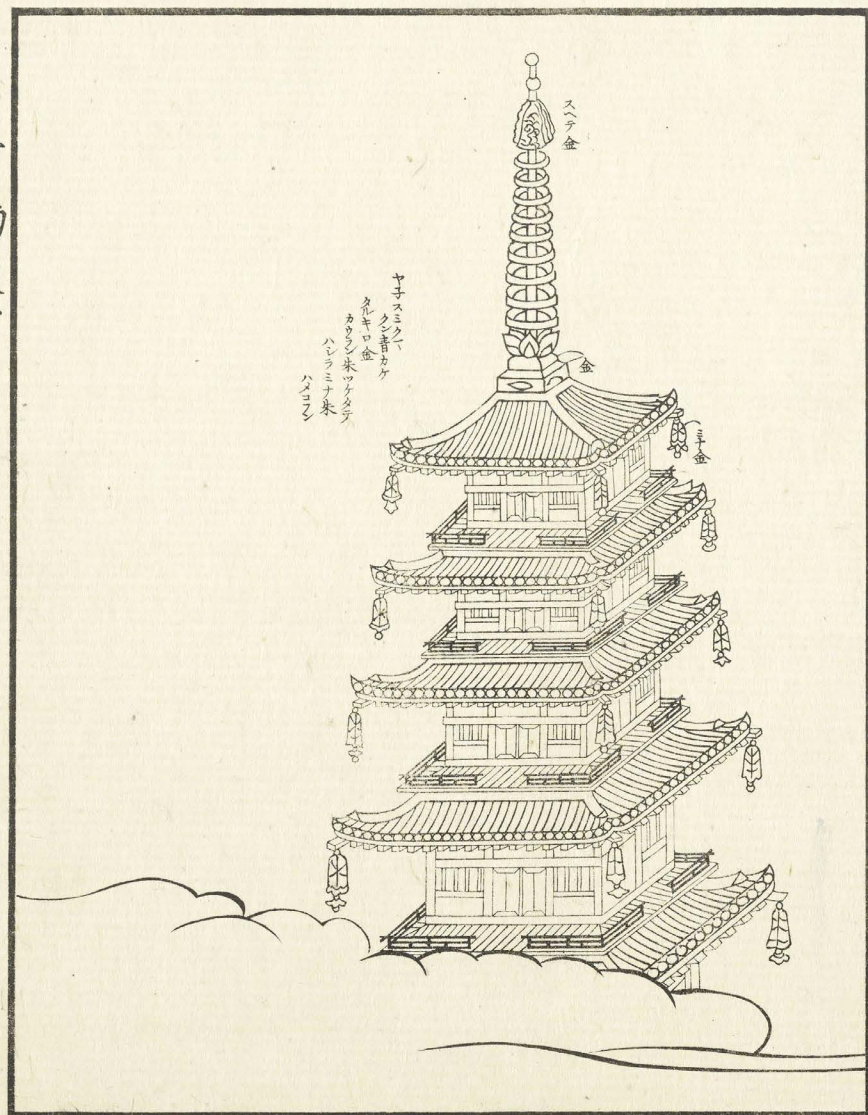


乙寺緣起





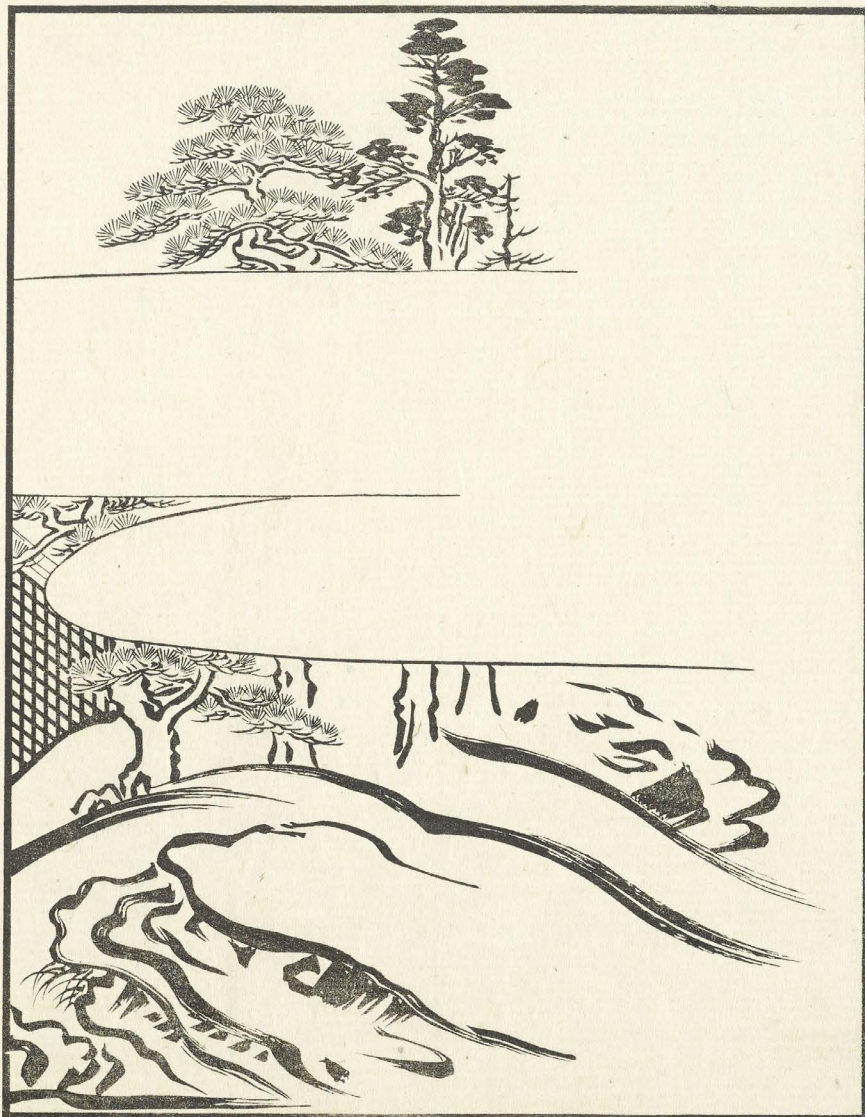




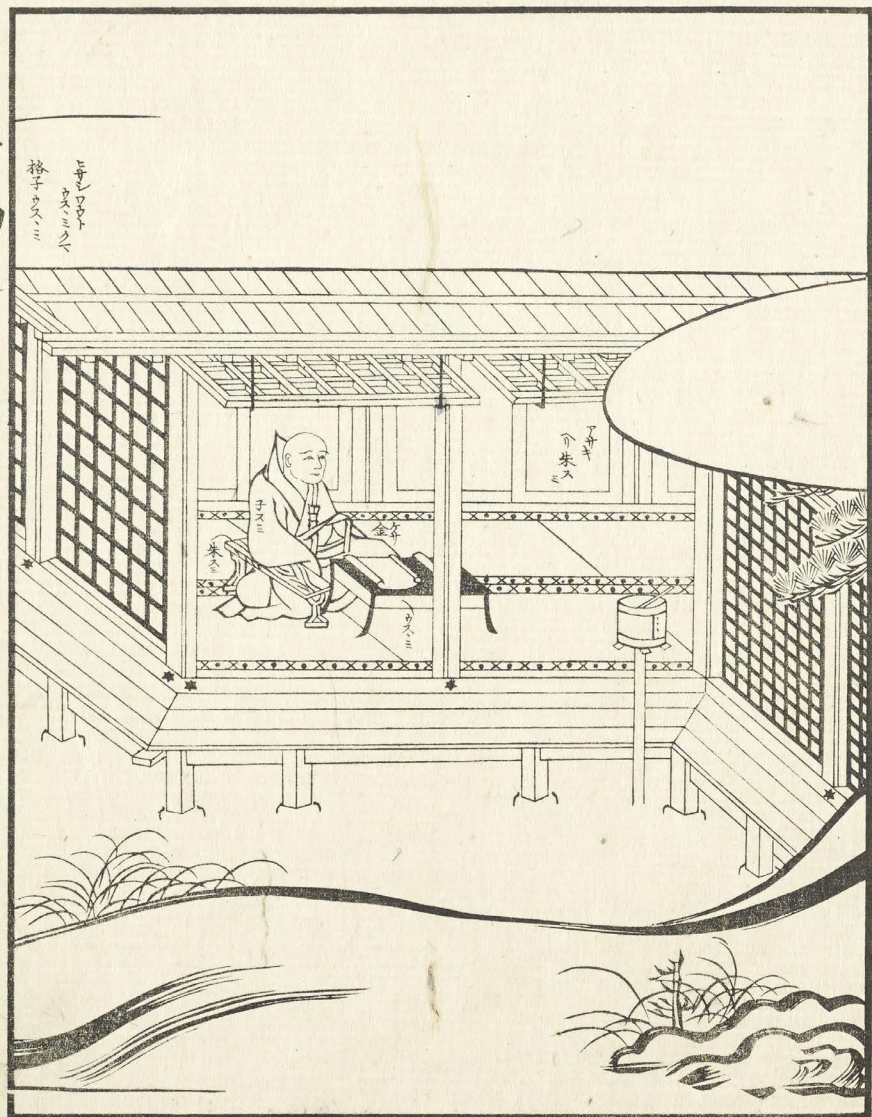
寺草創より以降鳳曆むさくはちとて四百二十
二年龍代よりに継ぐ三十八代に在る堂舎塔廟おほい
千僧坊やうや慈愛くくつふのころとて金
堂二王堂よりけり予時高倉院寺宇安元二年丙申
越後國は城太良助長といふものあり其伯父宮
禪師といぬ聖あり承安四年秋空山の猿月ふ
さきい安元三年の春桃李の花風より諸行無
常のことより眼よりへる生者必滅のありみんと
いふもむさく今此の寺松原の中ふいふを
すまひといふをともく修練親り功をつむ恵日

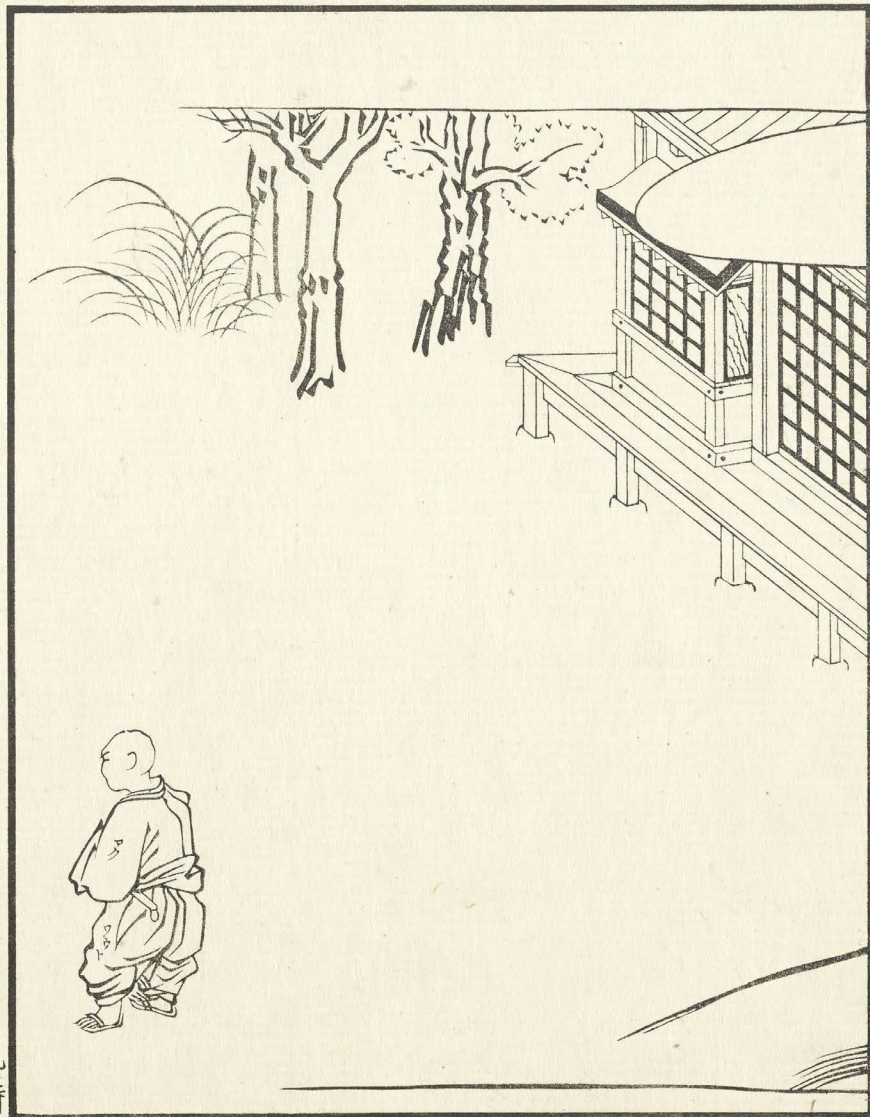
乙寺

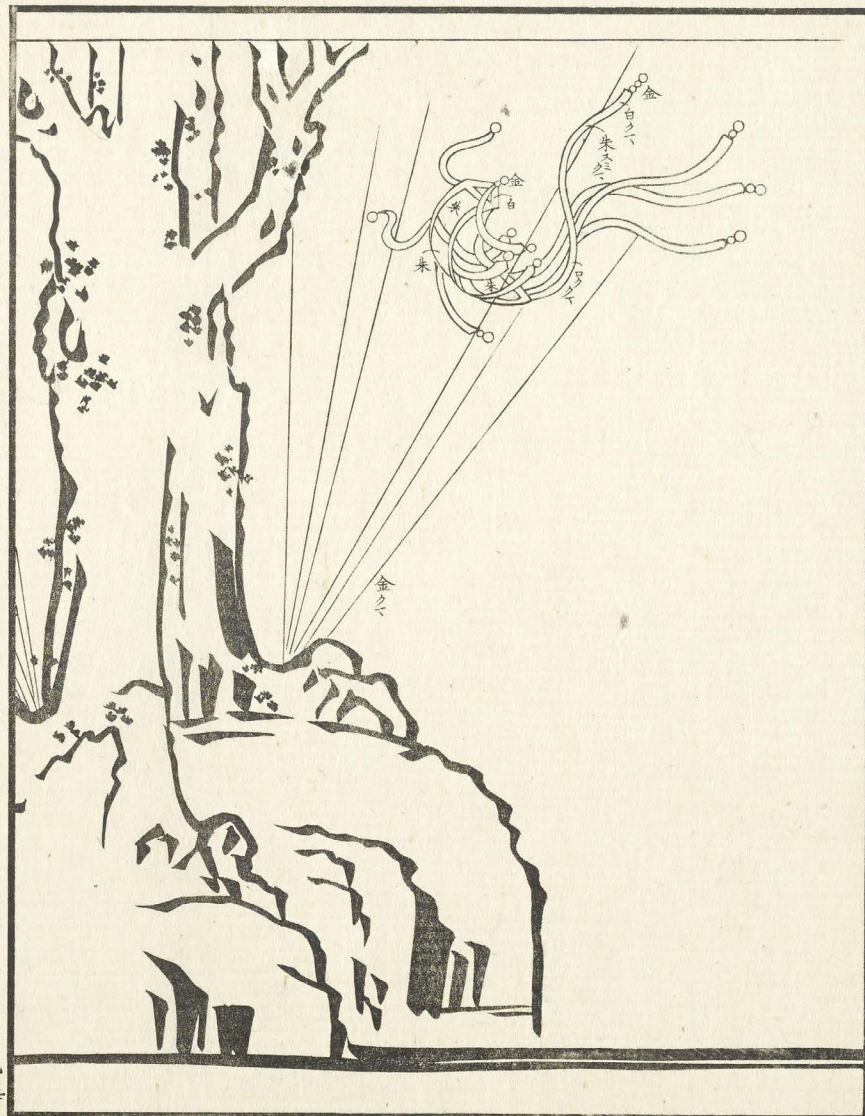
西海よりやく春朝の空運を安養寺の決ふむさく
明月松林より秋夕の樹を却率にむさくふ
あきと愛上人孤庵のふさ一の古木ありむさく
安元二年天瑞光より法人は是よりふさく
其の思ふをむさく所ふ又一の幡まひくく其上に
乱轉するく七日七夜人おろく是とて不思像の
思をなひまふ切流所成の縁幡め来慈作の幡
なむさく五る慈作の慈作ふさく一十二番に
増進所よりめく科よりこの幡風ふ勢より舞あり
る所ふ鈴よりむさく幡はつひより

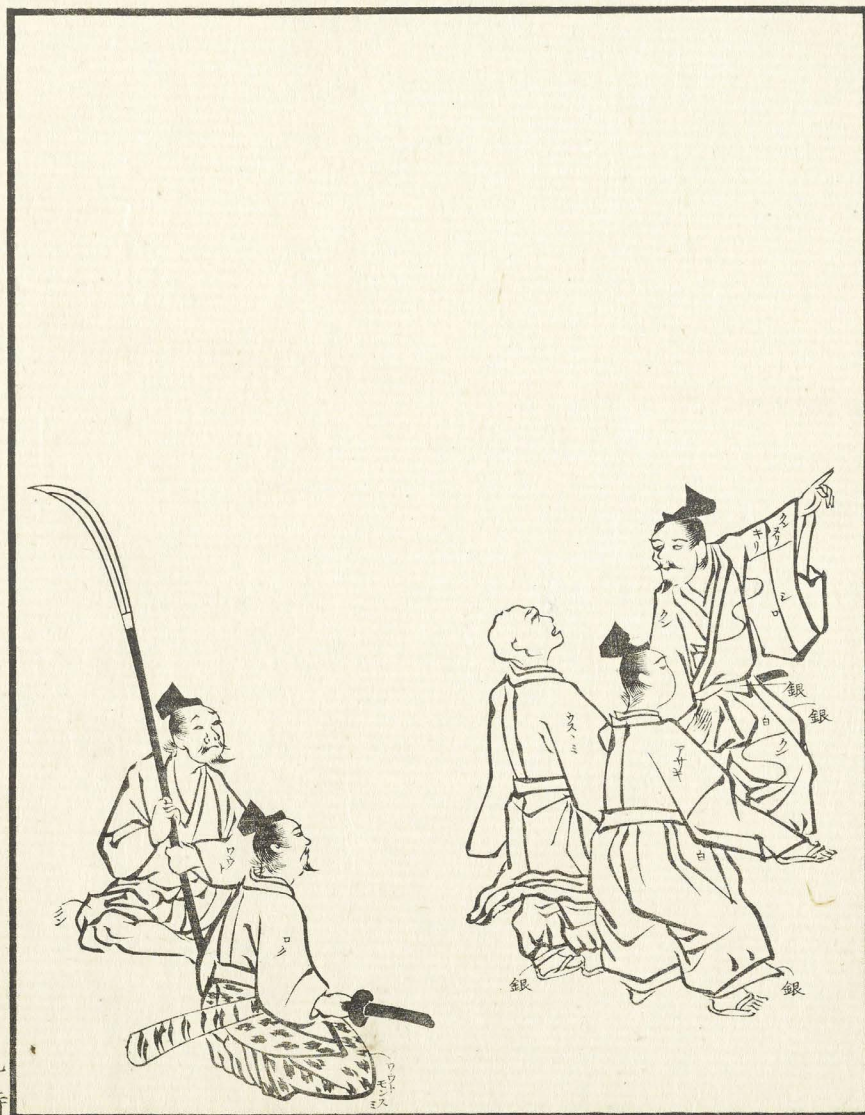


ミサロワ
カミミク
格子ウヘミ

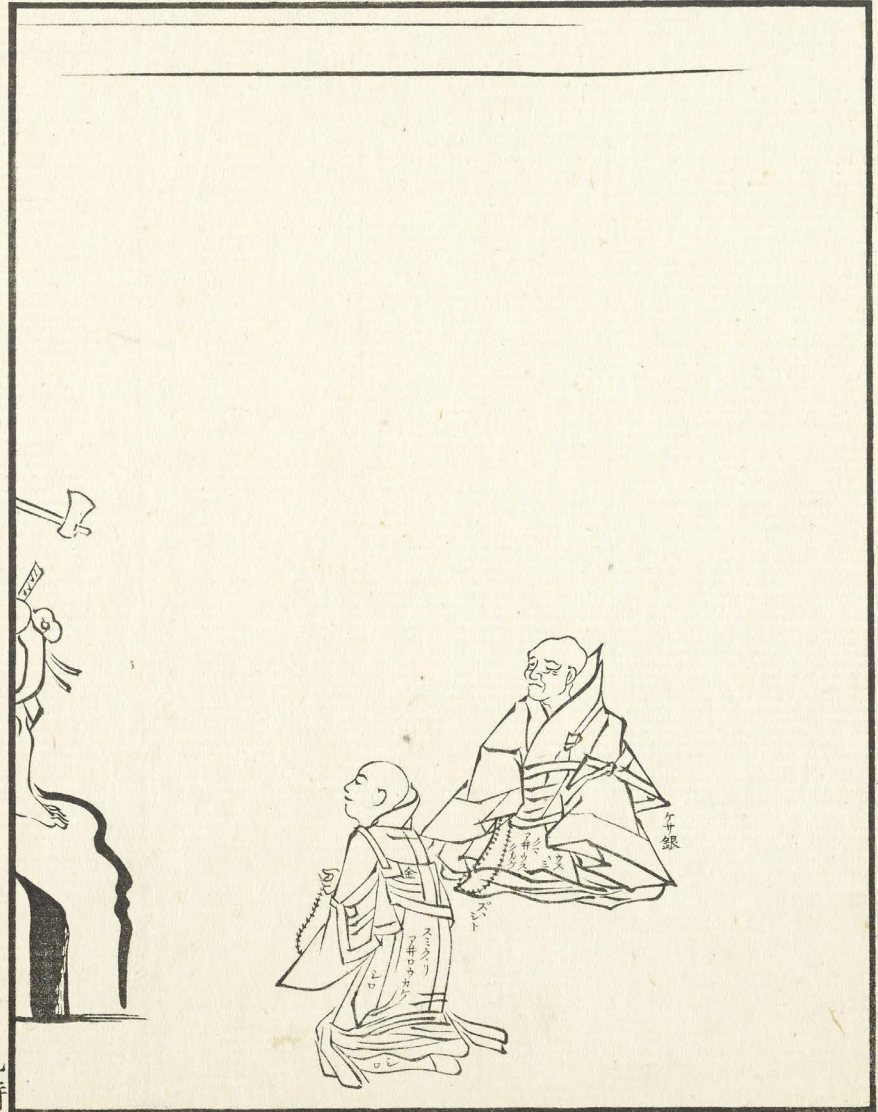


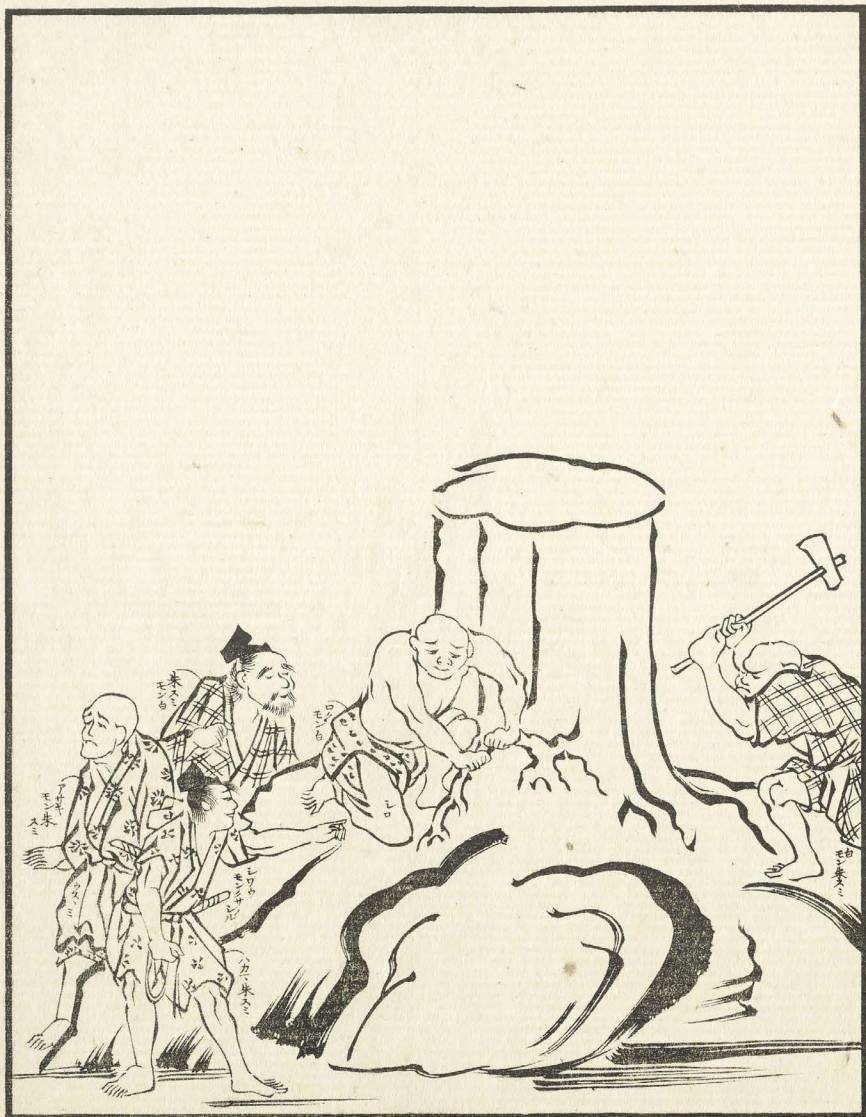






其時重ねもろゝ靈瑞もろゝふあゝそれぬ沙弥
 何あゝろゞ但願ハ法佛菩薩冥よか被をきこ
 てたろゝ未代利益の志ををめろゝと祈請
 するところふ夢ろゝ一人の沙門来て若女所ふ
 釋尊を身は舍利もろゝふれをやゝあゝろゝ
 てまろゝへゝとさゝつあゝふまゝ勢ろゝ敷る人
 人丈ををろゝ光のきろゝへゝとほろゝ



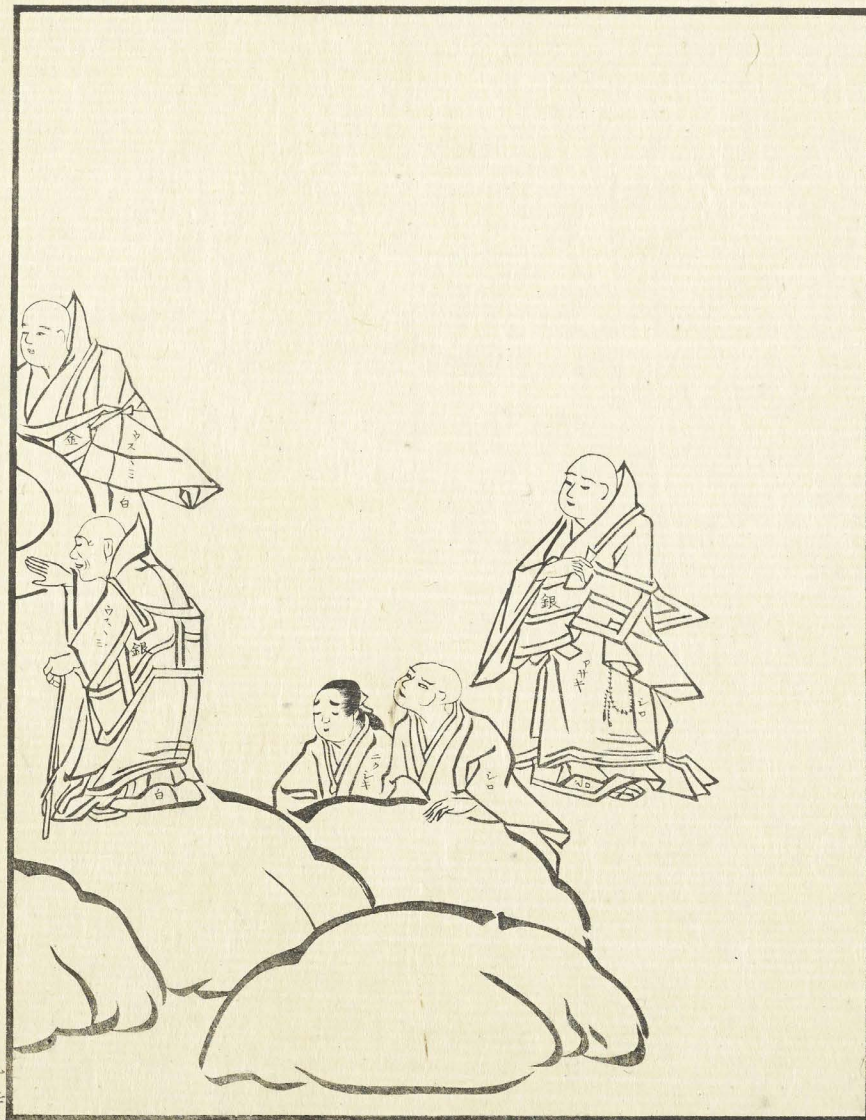
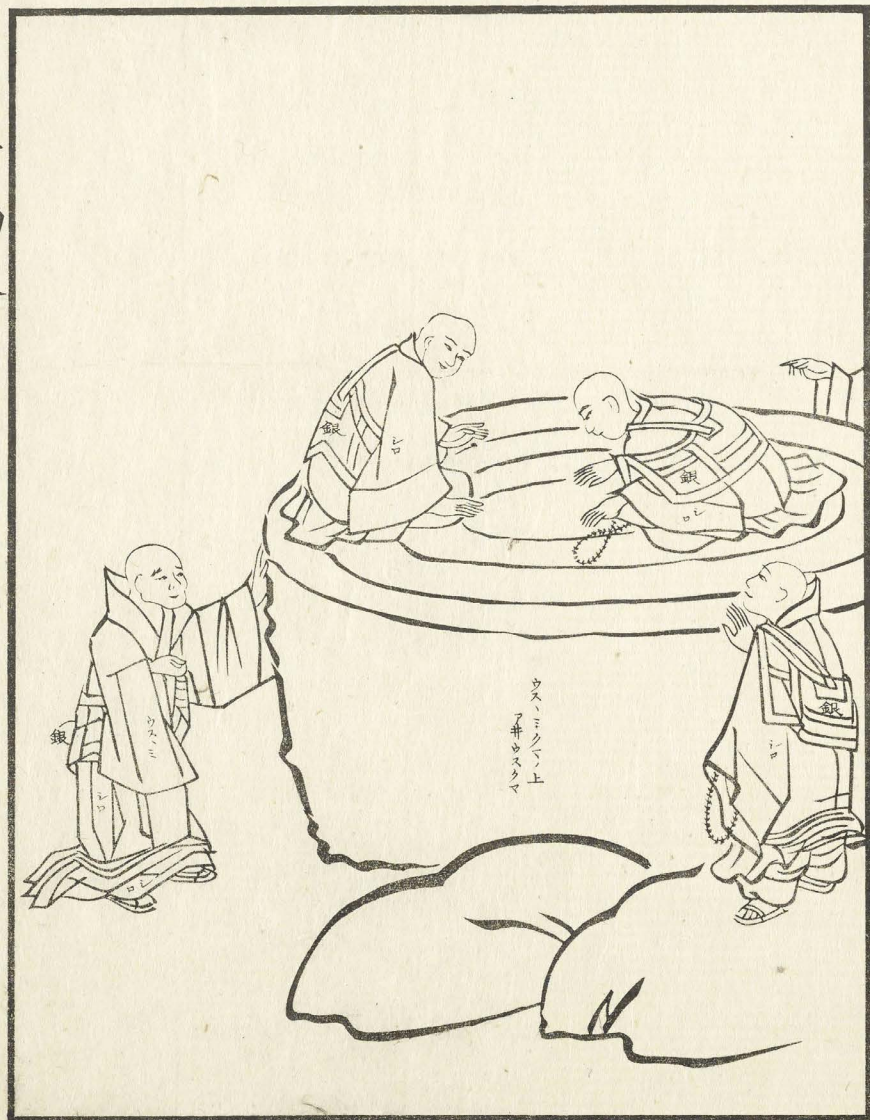


告のそ彼よとてそのいさよとて二丈五尺なり也
其説とほるふ塔の火燄竈鐸をもとむと出んその



乙寺

さふ四五十人てむく石を四ふてて面の
ひろさといふ七寸もある二丈ある大石あり其面ふ
ハ二寸ふ穴とてふ人足とみる石の金とてつる
又ハ石の唐楼といふ一丈の二寸ハ輪の口度と二
人二寸ふと一人次の二寸ハ輪の口度を八寸ふの
さ四寸也とて中ふ一粒の佛舍利とてさるる石の根
をあらとて二寸丈とてほるといふ根といふ
とて人ふ金輪とていふとていふとていふとて
ふ九丈のかまふ所ふとて輪化のふとていふ其
ハし浦ハ例演の松原とて小石とていふ況やちとてや





乙寺

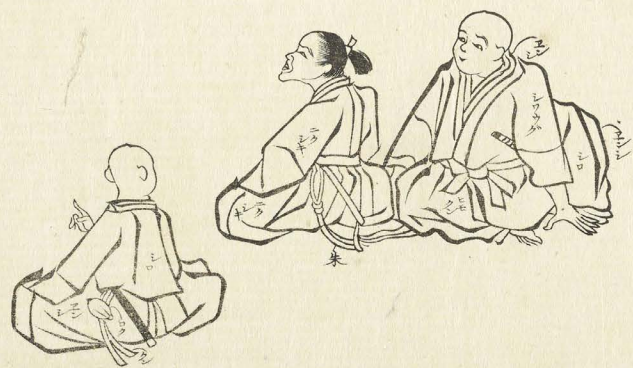
聖きつゝ舍利をみつゝきつゝまつゝ佛舍利
こゝまゝもひちまゝのゝをふんまゝとけ
なまゝも甘つゝきつゝあゝるゝく助長をほ
免ゝも人々を救ふいさゝもゝゝゝゝゝゝ
ゝ石のりゝゝゝゝ佛舍利をいひまゝま
はふ



さうそのうち寺金利を塔に入さうまつる
机のより安量し花をそり人書をいさへ
礼拝恭敬志すあまねく徳人とすむ佛沙
羅雙樹のむら涅槃り入さまいゝとて
よる光明とそりちるほまねく大會をて
終るのむらふふらふ生る外佛道たつる滅後
れ今我おいたる縁ありく如来の瑞光を
とみあまのちを身代なりあひまつる
はらへれりる宿るそのみありは生何
のむらゝ信心をいさへ寺金利とみ

乙寺

名号をとけりまつる







乙寺

清舍利の出現不思議尔神爰奇賣るまじ
 ち原とて高倉院清宇安元二年と天當固
 の園司奏聞し奉りて後白河院中へと勅
 定あるとて清宇をみやりて清奉清ありと



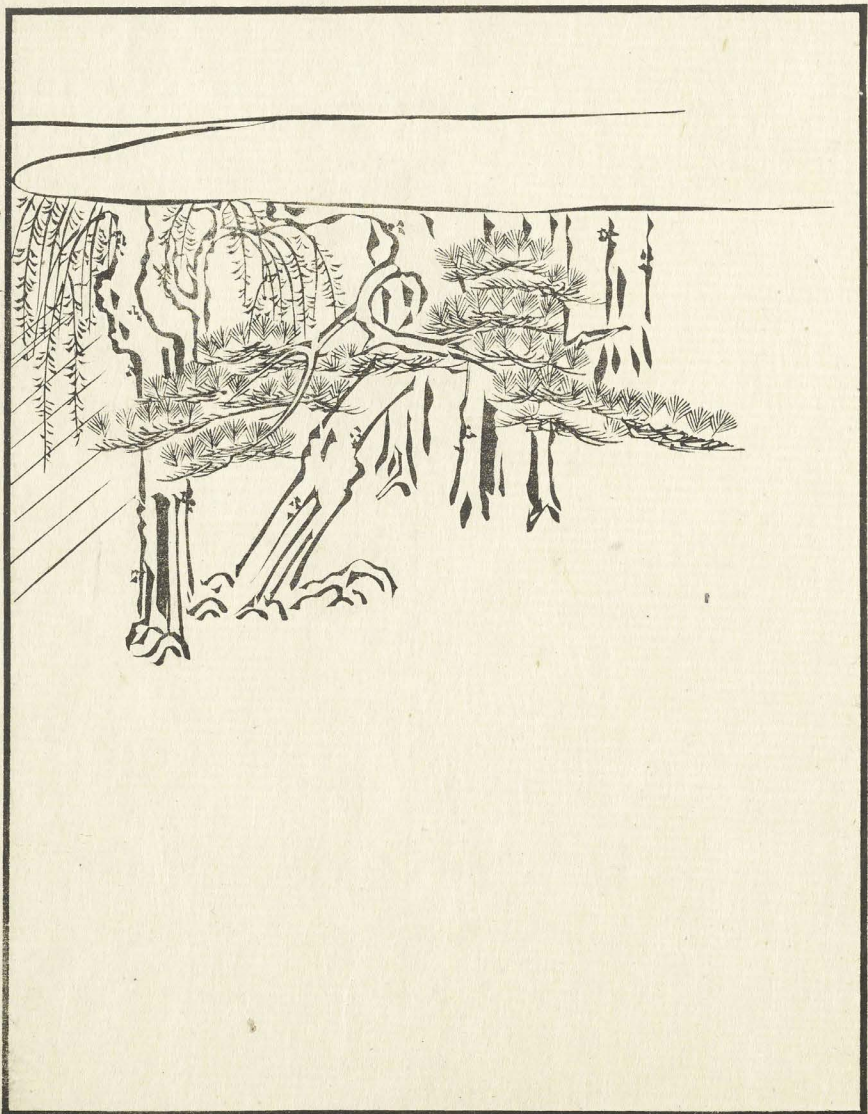
子鳴叢書

をうまをわたりまはるハ臧後よ生しけるかふ
 一みと祇獨箇の毛落りて人今日を舍利よあ
 へるよふいを歡喜樹の花よ用ぬと一天帰
 依の光あまぬく城月とて三礼歌謠のや
 ころりてそそれよりむく市渴原のいそと
 金塔を法くそとをさめまてまつむく勅宅
 なりては大納言禪師殊尊城太良助長土
 行事と承り純金三重に塔婆と建立す後
 白河院かの塔の中ふ市舍利をそ集りてま
 はるくたてて胡家れ法本尊とをむく市とて人

乙寺

る一と勅宅なりてハ其時更あて花法
 をまをいつてせりちてふあむくそん人のち
 いそりてやさしく教へし寺へのるそ市舎
 利多都やまろせ給ぬといふをまて人
 か是とてれ一みく石座のりて集りあむく
 そ花と供きあてそま沙羅難丈樹の昔人天
 大會め来茶毗の法と供き又釋尊の臧後
 一羅什と華寺の重者まて在世のむく
 とこいそま法と五竺け境よむく集りてそ
 近もとむくも人おほく砌よ集りて市をわたり

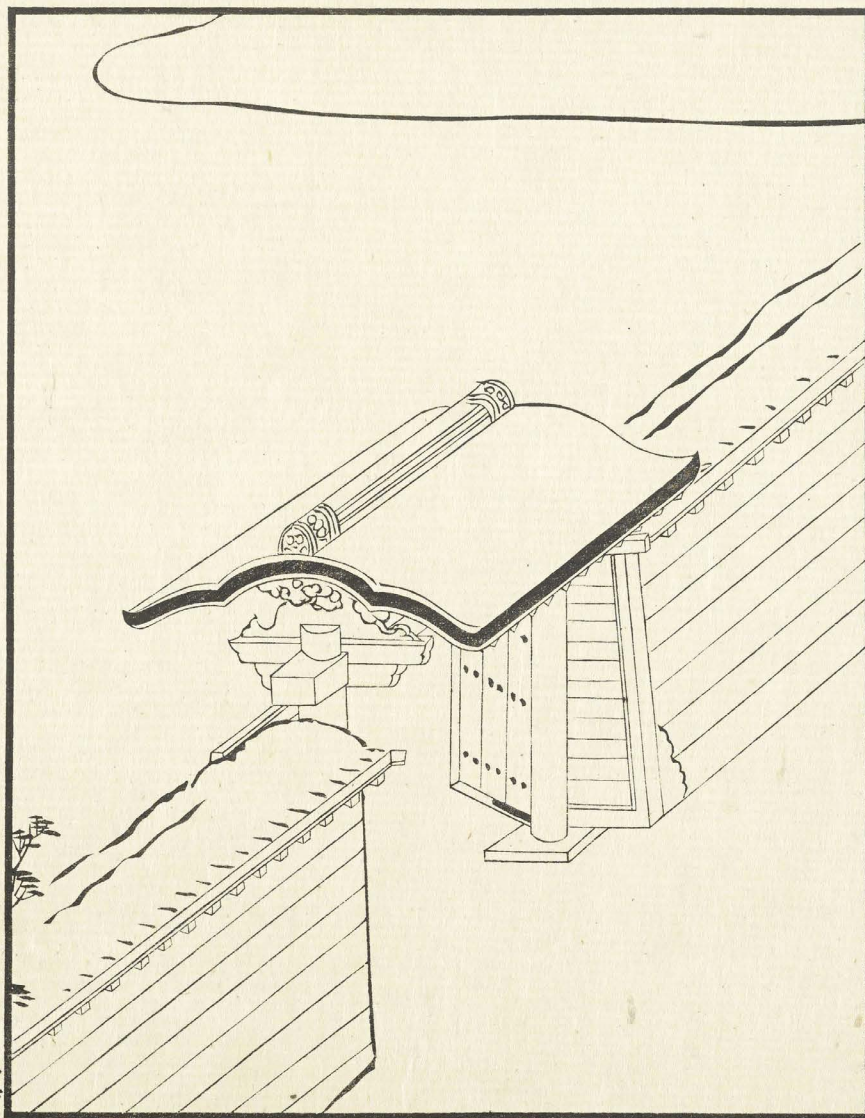
るゝ故よりまゝせ給へば、まゝむたゝゝ
 石座のゝみこも、まゝゝみこも一子の慈や
 ゐるたゆゝゝ慈の利益所をゝゝゝゝ
 とゝ母は因あつゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 とゝめまゝゝゝ佛舍利あゝゝゝ度ゝゝゝゝ
 とゝゝゝゝゝゝ二季七月ゝゝの石座ゝゝ舎利
 とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝの寺ゝゝゝゝゝゝ

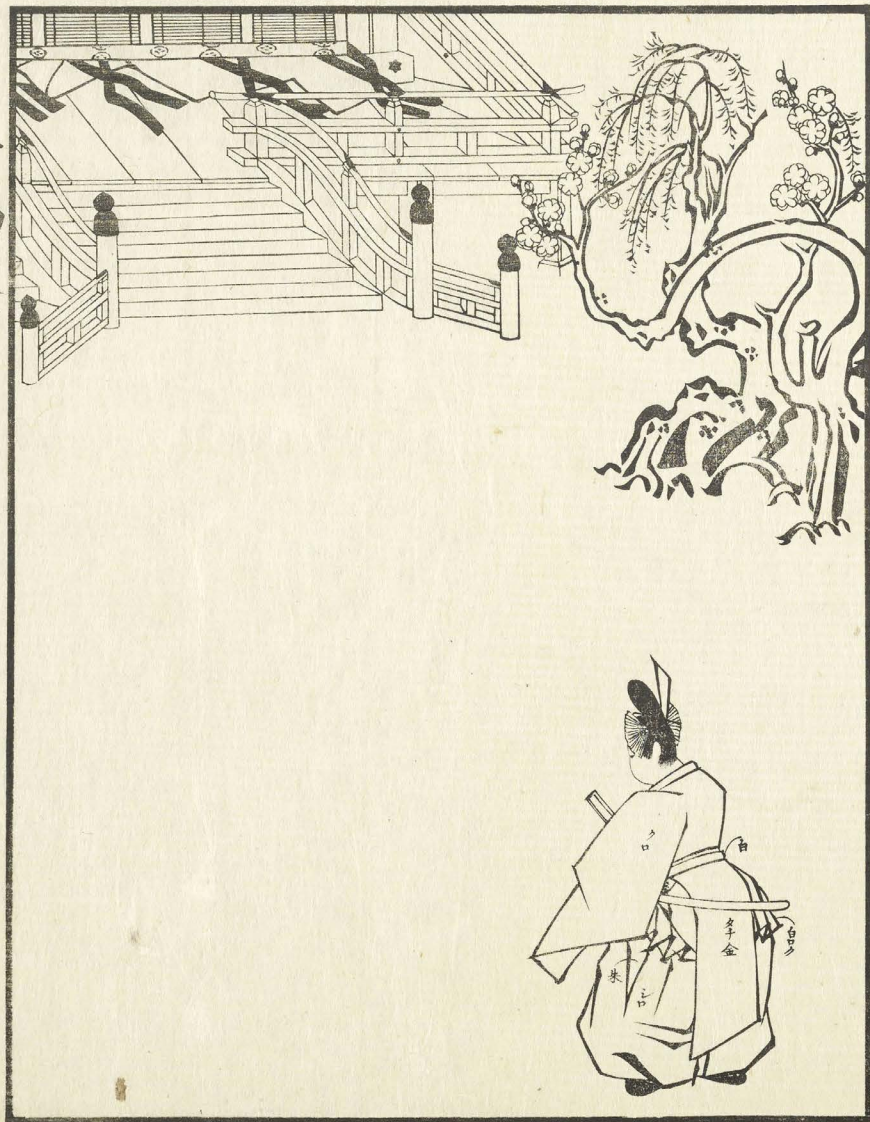


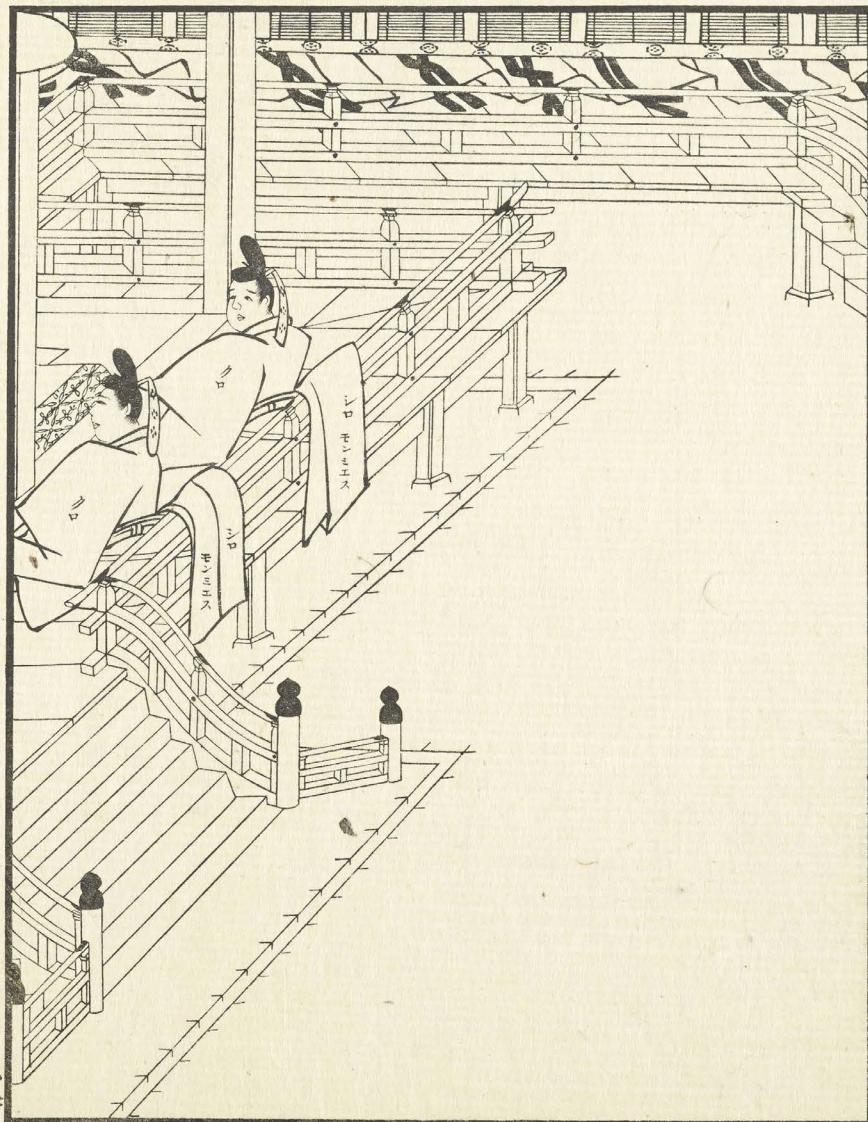
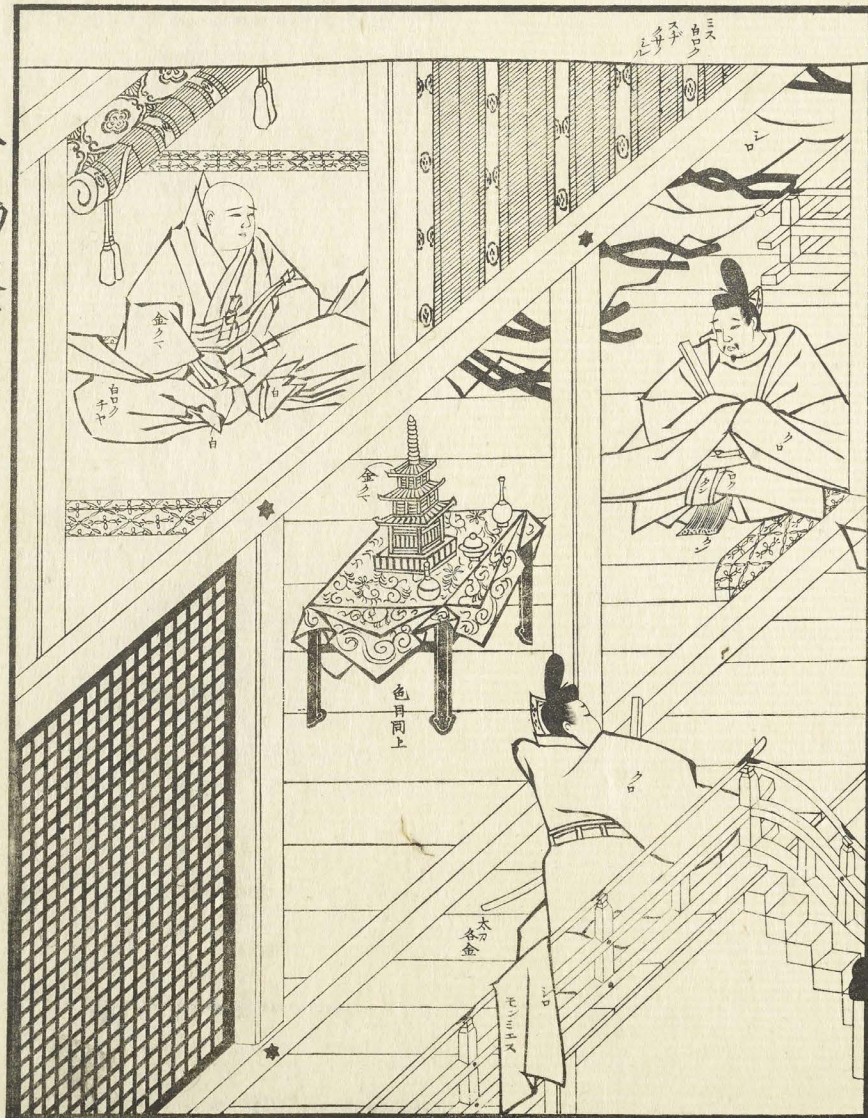


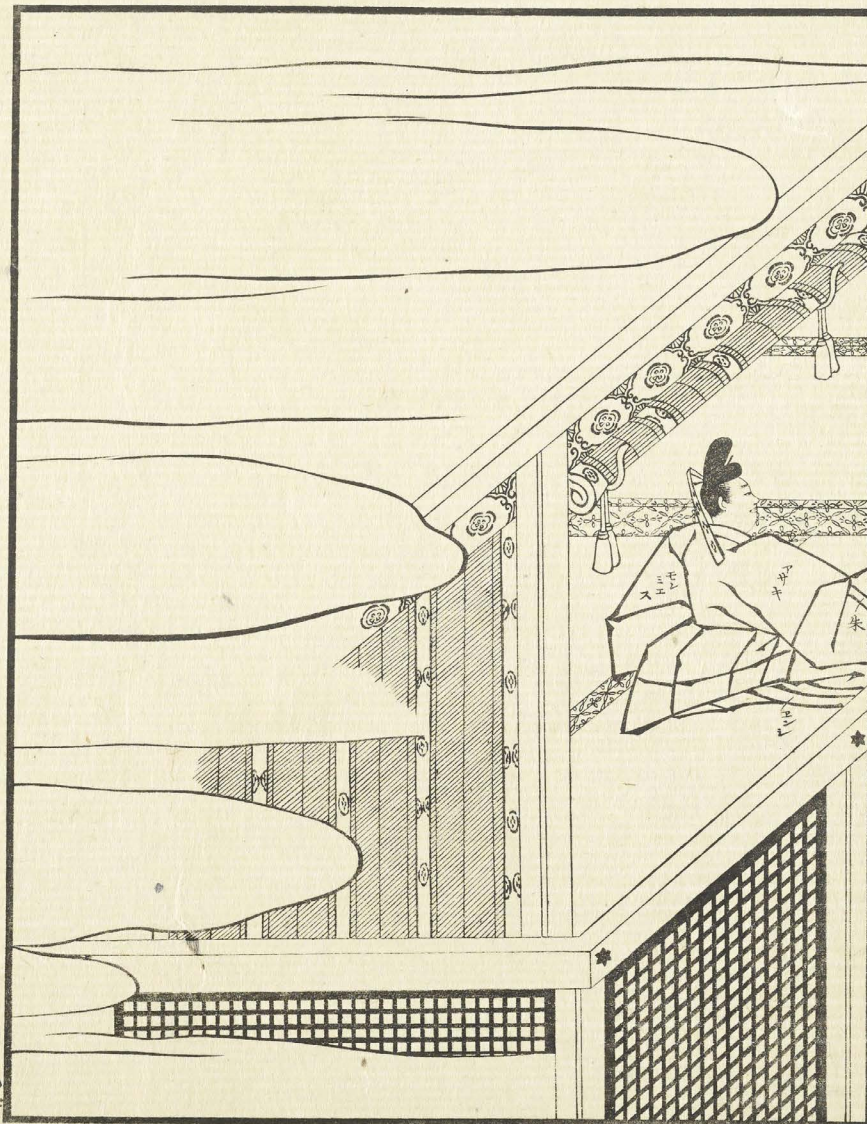
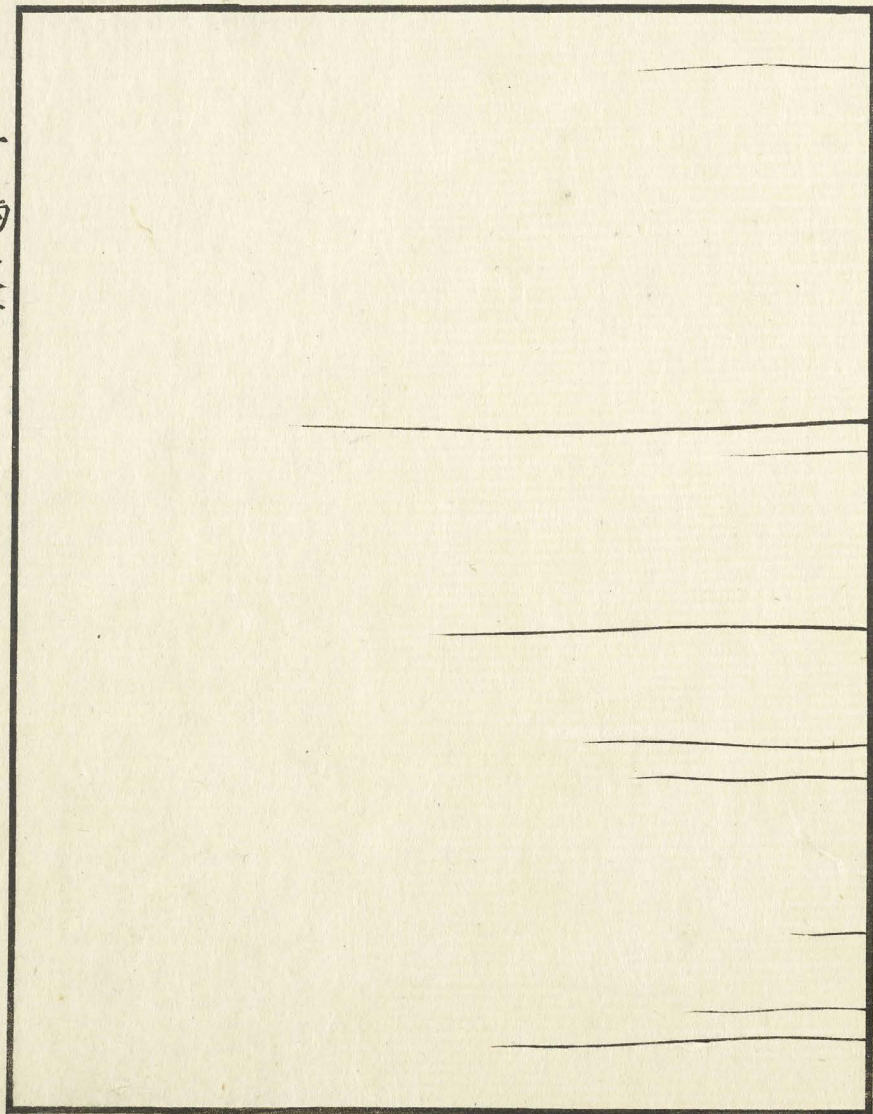
木ノ葉

乙寺









詞書

正二位行權中納言兼春宮大夫臣源朝臣

于時貞和三年八月 日

繪所正五位下行加賀守藤原伊久書之

丹鶴叢書目錄

丁未帙

正中御飾記一卷

內宮御神寶記一卷

右二部原本丹鶴書院藏

後水尾院當時年中行事二卷

右原本村田春野藏

春記三卷 同裏文書

右原本中山脩前守信守朝臣藏

九條右大臣集一卷

御堂閑白集一卷

右二部原本丹鶴書院藏

藤原家經朝臣集一卷

右原本仲田顯忠藏

和泉式部續集二卷

右原本井上文雄藏

源重之女集一卷

小侍從集一卷

殷富門院大輔集一卷

右三部原本仲田顯忠藏

風介津連奈幾物語一卷

右原本新見伊賀守正路朝臣藏

已上摠十二部十五卷或分或合為十一

本

戊申帙

釋奠供物圖一卷

諸陵雜事注文一卷

雜筆要集一卷

右三部原本村田春野藏

春記十一卷

右原本松平越中守定猷朝臣藏
室町殿春日詣記一卷

右原本村田春野藏

揔弓藤割次第一卷

諸鞍日記一卷

九條家車圖一卷

西園寺家車圖一卷

右四部原本田口千穎藏

萬代和歌集二十卷

前參議教長卿集六卷

濱松中納言物語四卷

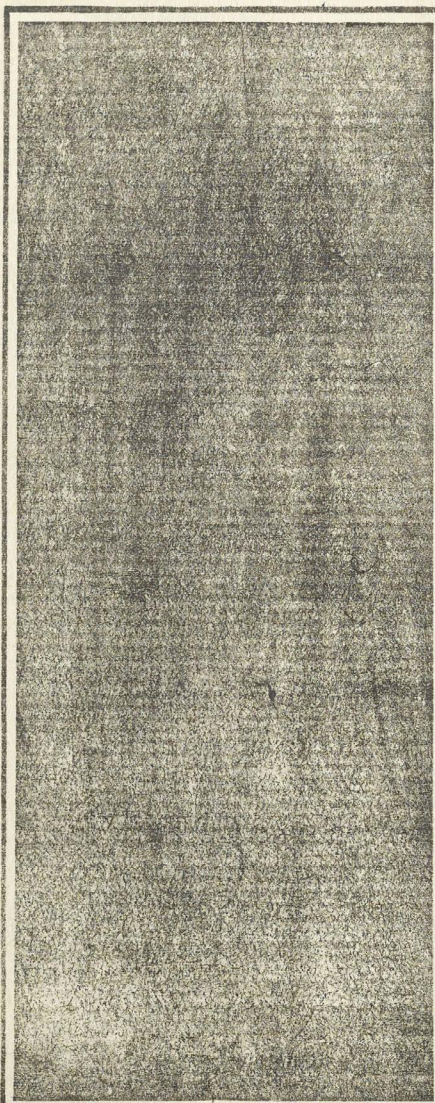
乙寺緣起一卷

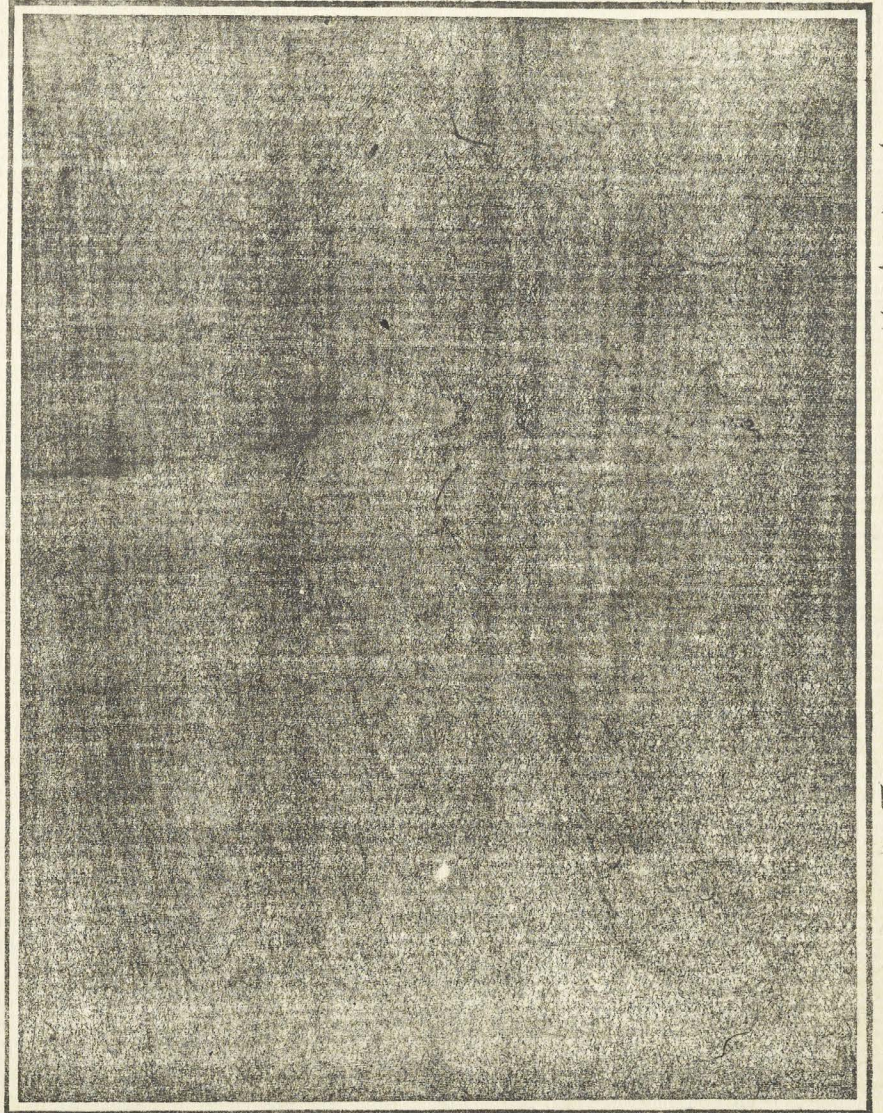
右四部原本丹鶴書院藏

已上摠十三部五十卷為三十九本

己酉帙

嗣刻





丹鶴城藏梓

京都三条通并屋町

出雲寺文次郎

大阪心齋橋通安堂寺町

秋田屋太右衛門

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

同鍛冶橋五郎兵衛町

中屋徳兵衛

賣弘所

三都書肆

